

令和 3 年度 医療救護所訓練実施結果について

令和 3 年度は、旭丘中学校および光が丘秋の陽小学校ならびに石神井東中学校で訓練を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、旭丘中学校と光が丘秋の陽小学校での訓練を中止とし、石神井東中学校のみ感染対策を施した上で、実施した。

(1) 実施日時

令和 3 年 10 月 17 日（日） 9 時 00 分～11 時 30 分

(2) 訓練会場

石神井東中学校（普通教室・保健室・防災備蓄庫ほか）

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・例年と比較して、規模を縮小して実施。
- ・参加者を 3 班に分け、相互に接触の機会を作らないよう配慮。
- ・マスク、ニトリル手袋、フェイスシールドを全員着用し、実施した。

(4) 訓練内容

- ① 救護所ツアー
- ② 医療救護所開設訓練
 - ・参集要員の役割分担
 - ・設営（机上）
- ③ 医療救護活動訓練
 - ・トリアージ
 - ・重症者処置
 - ・搬送

(5) 参加者 76 名

① 練馬区医師会	(5 名)	② 練馬区歯科医師会	(9 名)
③ 練馬区薬剤師会	(5 名)	④ 東京都柔道整復師会練馬支部	(5 名)
⑤ 登録看護師	(2 名)	⑥ 避難拠点要員	(7 名)
⑦ 順天堂練馬病院	(6 名)	⑧ 避難拠点運営連絡会	(7 名)
⑨ 石神井東中学校	(2 名)	⑩ 練馬区議会議員	(1 名)
⑪ 区職員	(27 名)		

(6) 主な意見

全体	<p>①災害発生時に、医療救護所の各場所はどのように機能するのか、被災者方の動線はどのような感じになるのかなどイメージを持つことができた。</p> <p>②今までの救護所訓練よりも、より実践的かつ参加者が考えて行動する内容であったため、災害時をイメージするのに役立つと感じた。各訓練の内容に対して、時間がタイトであったためもう少し時間を使った方が、目標達成効果はあったのではないかと感じた。</p>
救護所ツアー	<p>①あまり時間が取れず、問題点に関する解決策までは話し合う時間がなかった。</p> <p>②救護所ツアーを最初に行うことで、そのあとの机上訓練で導線や設置をどのように行うべきか具体的に考えることにつながり、とてもよかった。救護所ツアーの前にどういったところに注意してみるべきか参加者に伝えておくと、より効果的かと思う。</p>
開設訓練 (役割分担)	<p>①災害当日、医師、看護師等全員が揃わない状況で、役割分担をしないといけない場面も想定されるため、そのような状況のときはどのようにすればよいか等話し合いをし、フィードバックをいただく時間などもできれば良かった。</p> <p>②時間はタイトではあるが、イントロダクションを行い、何を学んでほしいのかを伝えると、この訓練の習得内容が高まると感じた。</p>
開設訓練 (設営)	<p>①机上訓練は、イメージトレーニングとして効果的です。最後に一例として区が想定しているレイアウトを提示してもよいかと思う。</p>
医療救護活動訓練 (トリアージ)	<p>①ビブスに症状が書いてあったので判断しやすかったが、実際の災害時にこれらを把握するにはもっと訓練が必要だと感じた。</p> <p>②トリアージの急所を分かりやすく講習していただける機会があると良いのではないかと感じた。</p> <p>③今回は規模が縮小されての実施だったが、やはり、例年くらいの傷病者役がいると良い。数をこなさないというところがある。</p>

	<p>④ トリアージでは実践しながら訓練できており、効果的な訓練だと感じた。1 グループ目では、ファシリテーターの解説だけではイメージがついておらず、実践に戸惑っている様子があった。事前に動画をもとにイメージしていないと、その場で行うというのは難しいと感じた。2 グループ目からは、医療スタッフが解説を行ってから実践に移っていたためスムーズに訓練できており、解説→訓練の流れが良いと感じた。トリアージを判定する事例が、START 法よりも PAT 法に合わせた内容であったため（解剖学的な内容など）最初の START 法での訓練に特化するのであれば、より合わせた事例である方がよいと思う。</p>
医療救護活動訓練 (重症者処置)	<p>① 順天堂の先生からのご指導があり、今、何を診れば良いかを直接アドバイスしていただいたことはとても良かった。</p> <p>② 医師が一人で対応されて大変だった。コロナ禍で難しいが、やはり医療資器材を使って処置したかった。</p> <p>③ 複数の重症患者の中で搬送順位をつける難しさや救護所内の限られた備品での処置の大切さを順天堂の先生がお話くださって良かった。</p>
医療救護活動訓練 (搬送)	<p>① 前もって担架の使い方を知っておくと、災害時素早く行動できるので、とても良い訓練だと思った。</p> <p>② ベッドから担架に載ってもらう際は工夫が必要で簡単ではないことを実感した。</p>
その他	<p>① コロナ禍の中での実施だったが、救護所ツアーの一部で人が密集したりする部分があり、マスクやフェイスシールドを着用しているといっても不安を感じた。</p> <p>② 災害はいつやってくるか分からない。長引くコロナ禍の中でも訓練を行うことはとても大切なことだと感じた。</p> <p>③ コロナ禍ということもあり、これからは感染症対策、発熱者の対応の仕方について、具体的に考えなければならないと思った。各職種の意見交換の機会があれば良かった。</p>